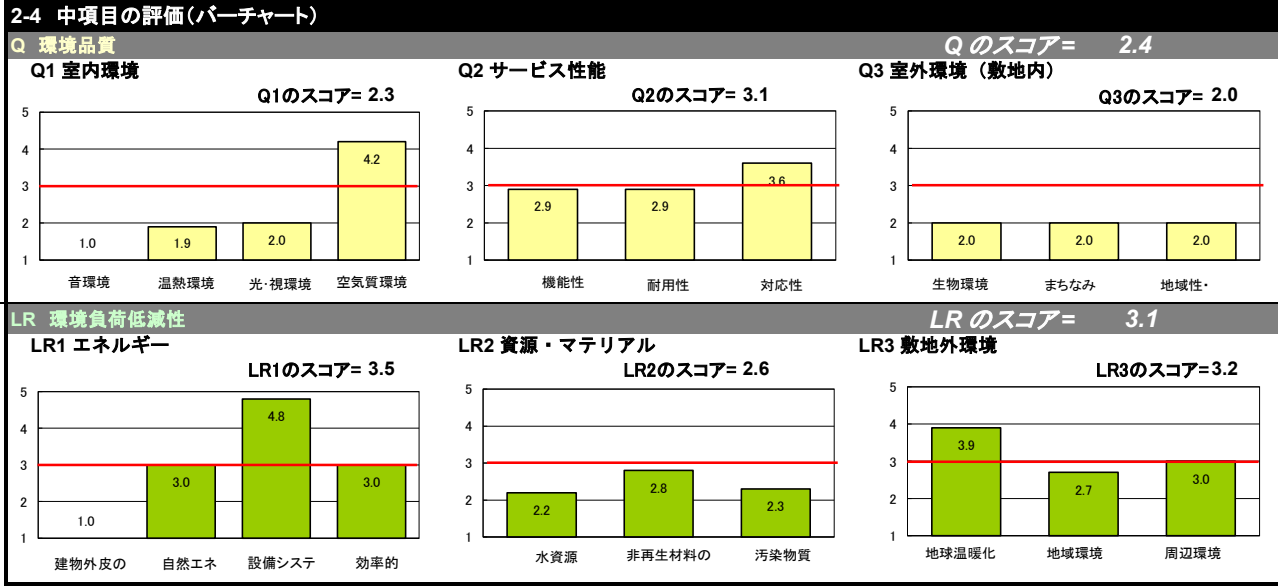
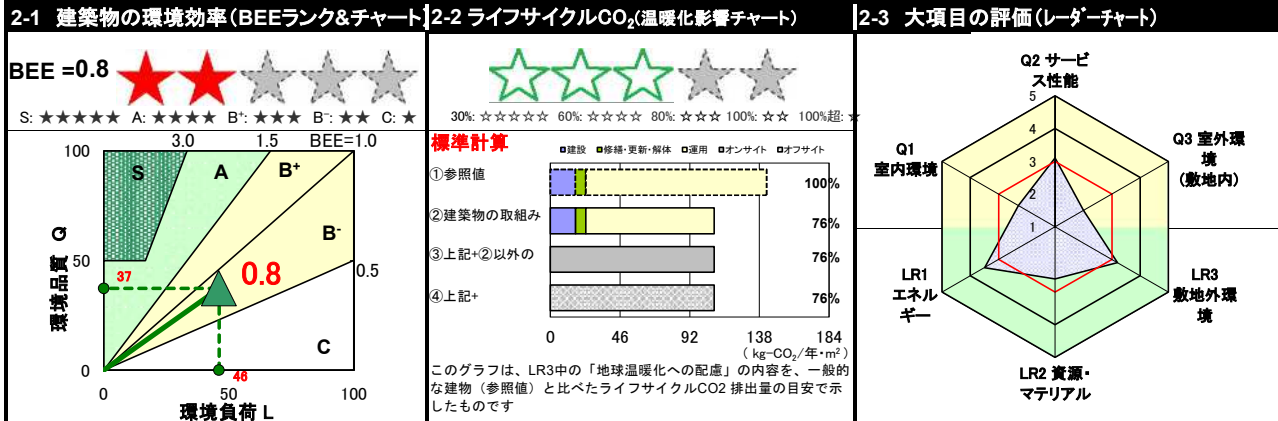


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)カインズPRO館八潮店 新築工事	階数	地上1F
建設地	埼玉県八潮市	構造	S造
用途地域	第1種住居地域	平均居住人員	20人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,000時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年7月 予定	評価の実施日	2026年1月8日
敷地面積	14,418 m ²	作成者	根岸 知宏
建築面積	2,966 m ²	確認日	2026年1月8日
延床面積	2,970 m ²	確認者	根岸 知宏



3 設計上の配慮事項		
総合	LED等の高効率機器を採用することで、省エネルギー性の高い建物としている。	
その他	特に無し	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
F☆☆☆☆の建材を積極的に採用し、室内環境向上に努めた。	耐用年数が長い部材を採用し、維持管理が容易になるように配慮した。	道沿いには積極的に緑地を設けた。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
BEIm=0.71	発泡剤を用いた断熱材は不採用とすることで、オゾン層破壊防止に寄与した。	LCCO ₂ : 76%

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)カインズPRO館八潮店 新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		Q 建築物の環境品質						2.4	
Q1 室内環境			0.40		-		2.3		
1 音環境		1.0	0.15	-	-		1.0		
1.1 室内騒音レベル		1.0	0.40	-	-				
1.2 遮音		1.0	0.40	-	-				
1 開口部遮音性能		1.0	1.00	-	-				
2 界壁遮音性能		-	-	-	-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-				
1.3 吸音		1.0	0.20	-	-				
2 温熱環境		1.9	0.35	-	-		1.9		
2.1 室温制御		1.6	0.50	-	-				
1 室温		1.0	0.50	-	-				
2 外皮性能		1.0	0.17	-	-				
3 ゾーン別制御性		3.0	0.33	-	-				
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-				
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-				
3 光・視環境		2.0	0.25	-	-		2.0		
3.1 昼光利用		3.0	0.50	-	-				
1 昼光率		-	-	-	-				
2 方位別開口		-	-	-	-				
3 昼光利用設備		3.0	1.00	-	-				
3.2 グレア対策		-	-	-	-				
1 昼光制御		-	-	-	-				
3.3 照度		-	-	-	-				
3.4 照明制御		1.0	0.50	-	-				
4 空気質環境		4.2	0.25	-	-		4.2		
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-				
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆の建材をほぼ全面的に採用している	4.0	1.00	-	-				
4.2 換気		4.0	0.30	-	-				
1 換気量		3.0	0.50	-	-				
2 自然換気性能		-	-	-	-				
3 取り入れ外気への配慮	給気口及び排気口:レベル5の配置条件を満たす(向き・距離)	5.0	0.50	-	-				
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-				
1 CO ₂ の監視	建築物衛生法の対象外建物	-	-	-	-				
2 喫煙の制御	建物内は禁煙予定としている	5.0	1.00	-	-				
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-		3.1		
1 機能性		2.9	0.40	-	-		2.9		
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-				
1 広さ・収納性		-	-	-	-				
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-				
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-				
1.2 心理性・快適性		2.6	0.30	-	-				
1 広さ感・景観	売場天井高:3.6m以上	5.0	0.33	-	-				
2 リフレッシュスペース		2.0	0.33	-	-				
3 内装計画		1.0	0.33	-	-				
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-				
1 維持管理に配慮した設計	採用した取り組み合計:7	4.0	0.50	-	-				
2 維持管理用機能の確保		2.0	0.50	-	-				
2 耐用性・信頼性		2.9	0.30	-	-		2.9		
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-				
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数		3.6	0.30	-	-				
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	外壁:ガルバリウム鋼板(耐用年数30年)	5.0	0.20	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	内壁:AEP塗装(耐用年数65年)	5.0	0.10	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-				
2.4 信頼性		2.0	0.20	-	-				
1 空調・換気設備	中央式空調換気設備無し	3.0	0.20	-	-				
2 給排水・衛生設備		1.0	0.20	-	-				
3 電気設備	④ア)に該当	3.0	0.20	-	-				
4 機械・配管支持方法		1.0	0.20	-	-				
5 通信・情報設備	③ア)に該当	2.0	0.20	-	-				

3 対応性・更新性			3.6	0.30	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高:3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.09	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	中央式空調換気設備無し	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.0
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		2)道路に面して植栽を計画	2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		1)既存緑地の保存	2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		V2)煙突経由排熱設備無し	2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.1
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制			1.0	0.20	-	-	1.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.71	4.8	0.50	-	-	4.8
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.6
1 水資源保護			2.2	0.20	-	-	2.2
1.1 節水			1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.60	-	-	2.8
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		グリーン調達品目(床材・ビニル床シート)	3.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		木材利用無し	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.22	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			2.3	0.20	-	-	2.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			2.0	0.70	-	-	
1	消火剤	評価対象消火設備無し	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		1.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		LCCO2:76%	3.9	0.33	-	-	3.9
2 地域環境への配慮			2.7	0.33	-	-	2.7
2.1 大気汚染防止		ガス給湯器無し	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音	規制対象外建築物	3.0	1.00	-	-	
2	振動	規制対象外建築物	-	-	-	-	
3	悪臭	規制対象外建築物	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

CASBEE埼玉県 重点項目シート












■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称	(仮称)カインズPRO館八潮店 新BEE	0.8	BEEランク	★★
------	----------------------	-----	--------	----

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア		
3.9	+	2.0	=	5.9 
重点項目の各スコアの合計点				
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上  	非常によい 6.8以上   	すばらしい 8.0以上    	

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減		スコア平均	3.9
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.9
・建物運用時のCO2発生量を抑えるため、省エネ性の高い建物とした。			
(2) 緑の保全・創出		スコア平均	2.0
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	2.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	2.0
道路沿いには高木などの緑地を連続して設けることで、周囲環境に溶け込むように配慮した。			

 :入力欄